

垂水朝拝会 「祈り」の紡ぎ

世話人代表 岩村義雄

2013年4月20日

「一家は朝早く起きて主の御前で礼拝し、ラマにある自分たちの家に帰って行った。エルカナは妻ハンナを知った。主は彼女を御心に留められ זָכַר」
(Iサムエル 1:19)。

「朝早く起きて」神様の前にひれ伏すのが朝拝会の姿勢です。なぜなら主は私たちの祈りを「御心に留めておられ」るからです。「御心に留める」זָכַר זָכַרは「記録する、覚える」が原意です。朝拝会が2010年7月から立ち上がる前に、すでに垂水で祈りの場[松下勝彦牧師の御父君たち]があったことを「זָכַר」なさっておられる方々もいらっしゃいますでしょう。

4月27日のイースターの46日前からレント(四旬節)の期間にご一緒に心を注ぎだして祈りましょう。

2013年5月18日

「主はすべてを喪失した者の祈りを顧み その祈りを侮られませんでした」 (詩編 102:18)。

「祈り」(תְּפִלָּה テフィラー)は神様の御前(לְפָנַי リフナイ)が由来です。主の臨在なさる朝拝会でご一緒に神様と向かい合っ取りなしを受ける至福の時です。

日本ではご利益(りやく)などと言ったりしますが、キリスト者の生命線が「祈り」でしょう。祈れなくなるほど忙しかったり、祈りを忘れてしまうような私たちが希望をもって生きる原点を見つめる機会です。

2013年6月15日

「そこで、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい」 (1テモテ 2:1)。

「祈り」プロセウケー προσευχήは、は神への祈りに限られています。直前の「願い」はデーシス δέσιςは必要とするものを求めることであり、神様だけでなく、頼み事をする権力、地位などがある人が対象になる場合も含まれます。祈拝会で教団、教派を超えてひとつになって祈る祈りは、単なる願い事ではありません。「～してください」とアラジンのランプをこすり、神様を鬼のように召使いにす

るではありません。隣人、弱者、敵について神様に祈るのです。

2013年7月20日

「だから、主にいやしていただくために、罪を告白し合い、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、大きな力があり、効果をもたらします」(ヤコブ 5:16)。

「正しい人」^{ディカイオス} **δικαίος**の祈りは力があると書かれています。確かに私たちを含めてディカイオスな人はいません(Ro 3:10)。しかし、キリストの贖いを通して、信ずる私たちはみな**ディカイオス**(義なる人)として生きることができます。(ローマ 1:17)。

朝祷会は政治にかかわらない、中立の立場ですが、参議院選挙を直前に控えた今、平和憲法の重みを考えられるのではないのでしょうか。

2013年8月17日

「神はレヒのくぼんだ地を裂き、そこから水が湧き出るようにされた。彼はその水を飲んで元気を取り戻し、生き返った。それゆえ、その泉はエン・ハコレ(祈る者の泉)と呼ばれ、今日もレヒにある」(士師記 15:19)。

サムソンは怪力の人でした。どこからその力が出てきたのでしょうか。「主の霊が激しく彼に降り」(同 14:19)と書かれているように神の介入があったからです。サムソンは祈りのナジル人でした。「**エン・ハコレ**」(エン「泉」+ハコル「呼び求める者」と)描写されている通りです。猛暑をはねのけ、福音に生きる力は祈りからもたらされます。強いペリシテ人に囲まれ、肩身の狭いイスラエルの民がサムソンに下る主の霊を共有したように私たちも朝祷会で協働していきましょう。

2013年9月21日

彼らに言われた。「こう書いてある。『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした」(ルカ 19:46)。

「祈りの家」^{オイコス プロセウケース} **οἶκος προσευχῆς**の磁場でなく、たくさんの人々を引き寄せる社交場になっているならどうでしょうか。イエスは「境内では目の見えな

い人や足の不自由な人たちが無視されているので怒って、悪徳な両替商人たちに机をひっくり返して追い出されたと記録されています。(マタイ 21:12)。その後、いちじくの木を見て、「葉ばかり出して、実がない」と言われたわけです。「葉っぱばかりで、中身がない」とは言われないように祈っていきたいと思います。

2013年10月19日

「わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き わたしに耳を傾けてくださる。生涯、わたしは主を呼ぼう」 (詩編 116:1,2)。

「嘆き祈る」(תַּחֲנוּנִים タハヌニーム)は父なる神に対する哀願、嘆願の意です。「願い」(תְּחִינָה トゥヒナー)の複数形で強調です。心の割礼を受けた者であるならば、生涯にわたって、創造主との関係はゆるぎません。ですから八方塞がりになろうとも、嘆き祈る時、顧みられる宗教体験をしているのではないのでしょうか。単なる頭のロジック、観念宗教ではない生き様を最期まで再確認できるのが神のしもべの強さと言えます。消費税アップ、非正規雇用、福祉切り捨てなど患難がありますが、共に分かち合う嘆き祈る仲間がいます。

2013年11月16日

「では、どうしたらよいのでしょうか。霊で祈り、理性でも祈ることにしましょう。霊で賛美し、理性でも賛美することにしましょう」(I コリント 14 : 15)。

祈りは霊性と思っている方が多いです。しかし、「理性でも祈る」ようにすすめられています。「理性」^{ヌース}νοῦςで祈るためには、東方教会のように神秘的な修行を積み重ねることも有効かもしれません。

神様は心もなんでもご存知だから祈らなくてもわかってくださるのでしょうか。子供がふさぎこんでいる時、父親が心配したら、「親ならなんでもわかっているはずだ」と黙り込まれたらどうでしょうか。口に出す祈りも大切です。私たち西方教会にあっては、祈祷会のような場所に集い会うことによって、親しめるでしょう。

2013年12月21日

「わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き」(詩編 116:1)。

選挙で、政治家は思想や正義を語るのではなく、経済を語れば当選する風

潮があります。その結果、特定秘密保護法案も通過しました。安倍晋三首相は、東アジアの緊張を利用しながら、専守防衛から、海兵隊を創設し、敵陣地を攻撃できる先制攻撃できる国にしました。

祈れないほど忙しかったり、落ち込んでいる時がありませんか。「嘆き祈る」(תַּחֲנוּנִים タハヌニーム)は他の箇所では「哀願の霊を注ぐ」(ゼカリヤ 12:10 『新改訳』)と訳されています。つまり、神ご自身が祈れない私たちに祈り求めることができるように導いてくださいます。

24歳から朝祷会で祈ってこられた奨励者をお迎えします。

2014年1月18日

新年には願い事をなさいましたでしょうか。神様から与えられたヴィジョンに確信をもって、歩み出されたと信じます。「あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです」(I コリント 1:11)。「祈り」と訳されている原語 ^{デエーシス}δέησις は「願い、請願、嘆願」が原義です。塚本訳では、(神は一人でも多くの人々の感謝をお喜びになる。)と付記しています。私たちの祈りが消費税、道德教育による右傾化、軍事的緊張の重い空気の中にあっても、地域の人々にとって感謝のいわれになりますように。

2014年2月15日

「モーセは主なる神をなだめて言った。『主よ、どうして御自分の民に向かって怒りを燃やされるのですか。あなたがたいなる御力と強い御手をもってエジプトの国から導き出された民ではありませんか』」(出エジプト 32:11)。

目に見えるもの、たとえば人間、制度、組織にばかり目を向けていますと、失望してしまうことがあります。さらに、追い込まれると、自分にとって都合の良い神、偶像を造ったり、運びやすい自分用の神様を求めます。しかし、

モーセは「主なる神をなだめて言った」の「なだめて」(^{ハーラー}הָלַךְ 原義「懇願して」)対話します。

私達も神様にのみ目を向けて、「我と汝」の信仰生活の馳せ場を走りましょう。恵みが注がれる体験を味わい、朝祷会は分かち合う喜びの時となります。

2014年3月15日

「安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そ

して、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした」(使徒 16:13)。

「祈りの場所」^{プロセウケー} **προσευχή** は、おそらく正式の会堂のない地において、集って祈っていた場所を指します。私たちも自分の家の中で、祈り場を設けているのでしょうか。たとえば、押し入れの中に、自分だけの祈り場があるキリスト者もいます。日々の生活の中でいつしか忙しすぎて祈れないとか、しばらく神様との交わりをおろそかにしていることがないでしょうか。祈禱院とか、観想会などに行く時間を作ることができないならば、特定の「祈りの場所」を定め、静まって神様と交わることによって、恵み、平安、確信が深まります。垂水朝禱会も、私たちの祈り場です。

2014年4月19日

「地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声が聞こえた」(I 列王 19:12)。

死にたいと思ったことがおありですか。バアル崇拝との劇的な勝利のすぐ後に、預言者エリヤは「主よ、もう十分です。わたしの命を取ってください。」(4節)と弱気になっています。しかし、神はエリヤを励まします。「ささやく声」(**קול דממה** コール デマーマー)の「ささやく」は「声をひそめて話す」「ささめく」(古語)の意です。漢字では、「私語く」です。つまり、神は他のだれにも聞き取れない仕方で、エリヤが驚のように再び雄壮に神の言葉の代言者として使命を果たすように整えられます。

神があなたにしかわからない「私語く」場合もあります。

2014年5月17日

「わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし、先祖に倣い清い【カサラー】良心【スナイデーセイ】をもって仕えている神に、感謝しています」(II テモテ 1:3)。

「良心」のギリシア語 ^{スナイデーシス} **συνείδησις** (スン「共に」+エイードン「見る」= 見てとった、悟る、気づく) はラテン語で **コンスキエンティア** (英語 **conscience** の語源) です。父母、祖父母、曾祖父母から受け継いだ良心ゆえに、生まれながらにして弱者、貧者、病人に感情移入します。ですから、教会でハギオス、ホスイオス(神と特別なつながりがあるとか、神と正しい関係にあって聖なる清さ)でなくても、^{カサロス}「清い」(心や手が《倫理的に》きよい、汚されていない、純粹なの意)に生きる人たちが周囲におられませんか。そ

用いて私たちを守ってください。円陣を敷いて私たちを **ר נ ש** 「見守る、救う、世話をする」] 宗教体験をします。「鯛の頭も信心から」との思い込みではありません。病、老老介護、貧困にあっても主の介入の恵みを味わっています。であれば、黙して語らないキリスト者、教会外に届かぬ「言葉」で終わっていてよいのでしょうか。地位、権力、巧みさがなくても、公に発信していきたいものです。

2014年9月20日

「この悪事を悔い改め、主に祈れ **δεήθητι**。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ」(使徒 8:22)。

悔い改め、主に「祈れ」(ギリシア語 **δεήθητι** 「願い求めよ」) の語源 **δέω** は「不可避である、義務である、決定的にそうなっていて変えられない」の意があります。「いつも **ἐν παντί καιρῷ** 目を覚まして祈りなさい」(ルカ 21:36)と同様です。「しばらく」(**Κατα Καιρον** I コリ 7:5)、高齢になって (**Παρα Καιρον** ヘーリキアス ヘブライ 11:11) からではなく「いつも」祈りについて時間を支配するように求められています。

忙しかろうと、祈る気持ちが起こらずとも、床に伏していようと、神様といつも直結しましょう。無料です。

2014年10月18日

「そのころわたしダニエルは、三週間にわたる嘆きの祈り **אָבַל** [アーバル] をしていた」(ダニエル 10:2)。

日本政府は民衆を一定の方向へ導こうとする思惑(今はこの国を多神論的な神の国にしようとする)があります。ダニエルはバビロン捕囚から帰還した民のために「一切の美食を遠ざけ、肉も酒も口にせず」(3節) 祈ります。なぜならエルサレムの神殿の再建が一向に進まないからです。「主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなしい。」(詩編 127:1)。ダニエルと神の僕である私たちも祈りに迫られます。時には、断食、徹夜祈祷、「アーバル」(目を泣きはらしながら祈り)によって神の介入を待ち望みます。復旧、復興、再建を目撃しましょう。

2014年11月15日

「だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られた **ἐλάβετε** と信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」(マルコ 11:24)。

「既に得られた」の「既に」は原文や英語聖書にはありません。日本語らしくした意識です。未来のことなのにアオリスト時制(シナイ写本)です。

アオリストとはそのような事実があったことを表わします。まだ実現していない、見えていないことを確信できるのが信仰のだいご味です。たとえば、病からいやされたいとか、自分は福音の宣教者になりたいとか、苦悩から逃れたいと祈り続けるならば、先取りで体験します。

つまり私たちの信仰、力、希望の根拠となっています。

2014年12月20日

「わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。知恵と力をわたしに授け
バア-

今、願い~~ヌツコ~~をかなえ 王の望むことを知らせてくださいました」(ダニエル 2:23)。

生命ある植物は二酸化炭素を吸って、酸素を放出。動物は酸素を吸って、二酸化炭素を放出します。神が創造した自然界の営みには循環があります。信仰者も神との関係は感謝と賛美をいつも放出し、神からの知恵と力を吸います。それにはバアー[アラム語 「願う」]が役目を果たします。バアーは「祈り」[ダニエル 6章14節 名詞形バウー]がチャンネルになり、信仰者の霊的呼吸を深めます。胸の奥底まで深呼吸すると健やかな生活となります。森林浴に相当する朝禱会で思い切り、神に感謝と賛美をし、神から知恵と力を吸い込みましょう。

2015年1月17日

「宴会~~δοχή~~を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい」(ルカ 14:13)。

「宴会」~~δοχή~~はギリシア語 ~~δέχομαι~~の派生語です。デコマイは「受け入れる、受容する、認める、歓迎する、接待する」の意があります。6434人が犠牲になった阪神・淡路大震災から20年。教会、避難所、仮設住宅でどれだけ「貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人」が受け入れられたのでしょうか。寄り添うのは制度ではなく、人間です。母子家庭、父子家庭、独居者……。 「ぼく、なんで死んだんだろう」と問いかける声に今年もご一緒に耳をすましましょう。

2015年2月21日

「わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き わたしの祈りの家の喜びの祝いに連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるならわたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」(イザヤ 56:7)。

בֵּית הַפְּלָתִי ^{ヴェイト・テフィラティ} 祈りの「家」は、「あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい」（I ペテロ 2:5）と同じです。「霊的ないけにえ」とは、私利私欲を完全に焼き尽くして献げる「賛美、感謝、喜び」の香しい犠牲です。たとえば大切な時間を犠牲にしなければ価値のある献げ物にはなりません。ヴェイト・テフィラティである朝祷会も献げる場でしょう。

2015年3月21日

「そうすれば、外部の人々に対して品位をもって歩み、だれにも迷惑 ^{ケレイア} χρεία をかけないで済むでしょう」（I テサロニケ 4:12）。

他者に「迷惑 ^{ケレイア} χρεία をかけないようになさっていませんか。高齢、認知症、体力が弱った時、“お世話になります。ありがとうございます。”とお互いに言えるコミュニティになればいいにもかかわらず、“迷惑をかけてすみません”と聖書はすすめているのでしょうか。聖句の原語ケレイアは「必要」「場所」の意です。仕事ができるのに働かない、勤めない場合に戒められています。

したがって「兄弟たちが、わたしの必要を満たしてくれたからです」（II コリント 11:9）と書かれているように独りの生活、病で歩けない、貧しい時は信仰の仲間たちを用いて神様から満たされることを感謝しましょう。

2015年5月16日

「あなたはわたしの嘆き ^{ノウド} נאד を数えられたはずです。あなたの記録にそれが載っているではありませんか。あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください」（詩編 56:9）。

かつては「嘆き ^{ノウド}」（「さすらい」）に相当する人生だったかもしれません。主に出会ってから、革袋に入るほど涙を流して祈って来られたし、今もそうでいらっしやることでしょう。乾いた心ならば、涙は枯れています。「わたしはあなたの祈りを聞き、涙を見た」（II 列王 5:20）と、不透明ではなく、目が澄むほど、涙を流す朝祷会です。

岩村は12日～17日、ネパールで親、家をなくして嘆いている子どもたちのために垂水朝祷会の主にある愛を伝えています。お祈りいただければさいわいです。

2015年6月20日

「わたしは、こう祈ります。知る力と見抜く力 αἴσθησις とを身に着けて、あなたがたの愛がますます豊かになり」（フィリピ 1:9）。

「祈り」が深まると、不思議なしるしが伴います。しるしは奇跡のような力を伴います。「見抜く力」です。「見抜く力」（ギリシア語 ^{アイスセーシス} αἴσθησις “洞察力”）は無知のままの“悟らない”“知ろうとしない”世の感性とは異なります。「識別力」（『新改訳』）をもって、愛から見離された孤児、寡婦、寄留外国人たち（エレミヤ 22:3）に敏感に感知するようになります。垂水朝祷会の祈りによって、被災者は孤立死、孤独死に陥らない生きる力を得ておられます。神様に感謝しています。

2015年7月18日

「主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ」（イザヤ 40:31）。

「望みをおく」 קוה カヴァー「待望する、希望する」の意対象は創造主です。大空を見上げて、地平線の果てにいたるまで見つめていると、神の偉大な御手に心は吸い取られそうになります。八方塞がりだった消極的な見方が一掃され、「新たな力」が注入されます。

悩み、不和、病でふさぎ込んでいたにもかかわらず、「鷲のように翼を張って上る」と根源的な力を注いでくださいます。すると老い、病む、マイナス思考から転換し、上昇気流に乗った鳥のように勇壮に飛ぶのです。観念宗教ではなく、体験宗教の醍醐味でしょう。

2015年8月15日

「平和 שלום を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」（マタイ）。



垂水朝祷会でも唱和しています「アシジのフランシスコの『平和の祈り』」について、起源、由来などを黙想しましょう。

「理解される」「理解する」「愛される」「愛する」と二つの言葉が対になっています。第一次世界大戦 [1914-1918]の時代にカトリック教会で「聖心にささげる祈り」として誕生したようです。同信会創始者エドワール・ブリエール神父説が有力です。

プロテスタントによる「平和の君の騎士運動」が「アシジのフランシスコの『平和の祈り』」と名付け、世界のエキュメニスティの普及に貢献してきました。